新潟大学人文学部・佐渡市教育委員会連携協定事業　シンポジウム

佐渡の鬼太鼓と新潟大学







参加費 無料

日時 令和8年11月14日(土)
13:00～16:00(12:30開場)

定員 100名(申込不要、先着順)

会場 あいぽーと佐渡(佐渡インフォメーションセンター)
佐渡市両津夷384-11

シンポジウム

研究発表	小澤 ゆい	(新潟大学大学院 現代社会文化研究科博士前期課程)	鬼太鼓にみる面の制作技術と継承される造形
講　演	中本 真人	(新潟大学人文学部准教授)	鬼太鼓の近代
講　演	田中 咲子	(新潟大学人文学部教授・新潟大学旭町学術資料展示館長)	企画展「佐渡の鬼太鼓と新潟大学」を終えて

お問い合わせ先　佐渡市教育委員会 社会教育課 社会教育係　TEL 0259-58-7356

主催：新潟大学人文学部　共催：佐渡市教育委員会

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

開催趣旨



この夏、新潟大学旭町学術資料展示館では、企画展「佐渡の鬼太鼓と新潟大学－鬼面の造形と制作技術の継承－」を開催しました（6月27日～8月8日）。この企画展では、佐渡の鬼太鼓をテーマに取り上げて、特に新穂・両津地域の鬼面を展示するとともに、その造形の多様性や継承のあり方を紹介しました。また平成22年に締結された人文学部・佐渡市教育委員会連携協定についても紹介し、その事業の一部である「表現プロジェクト演習Q」の授業風景や、これまでの佐渡学セミナー・シンポジウムのポスターなども展示しました。



本シンポジウムでは、この企画展「佐渡の鬼太鼓と新潟大学」の展示内容とともに、鬼太鼓の歴史や鬼面の造形に関する学術的成果も紹介します。その上で17年目を迎えた連携協定事業の歩みを振り返りつつ、今後のあり方を議論する機会としたいと思います。また、今回のシンポジウムを通して、佐渡の歴史と文化に対する新たな視点を得るとともに、鬼太鼓という郷土芸能を次世代に伝える契機とできれば幸いです。

プログラム

研究発表 **鬼太鼓にみる面の制作技術と継承される造形**　小澤 ゆい

講　演 **鬼太鼓の近代**　中本 真人



相川の善知鳥祭礼で行われていた鬼太鼓は、やがて佐渡島内各地へ伝わり、多様な型へと発展しました。近代になると、文化人の紀行文や著名研究者の論考、郷土芸能への関心の高まりを通じ、その存在は島外にも広く知られるようになります。本講演では、実際に鬼太鼓を見た文化人の文章をひもときながら、近代における鬼太鼓と、鬼太鼓が全国的な知名度を獲得していく歩みをご紹介します。

講　演 **企画展「佐渡の鬼太鼓と新潟大学」を終えて**　田中 咲子



今年6月27日～8月8日にかけて本学旭町学術資料展示館にて開催した本展は、佐渡の方々から全面的なご協力を頂き実現することができました。当館館長として、また展示企画者の一人として、貴重な経験と知見を得ることができた機会でもありました。本講演では、本企画展実現の舞台裏をお話しするとともに、本企画展を含めた本学の展示公開活動についてご紹介します。

ディスカッション